

ICT を活用した産地情報広場の開発

ーフルーツクラウドβ版についてー
和歌山県果樹試験場 栽培部 池田晴佳

1. はじめに

和歌山県下のウンシュウミカン園は地形が複雑で、近接していても異なる気象経過をたどる場合があります。また、近年は温暖化によると思われる高温・干ばつ、集中豪雨といった異常気象が頻発しており、栽培の基本である「適期に適切な作業」はベテラン生産者ですら困難になっています。そこで、和歌山県果樹試験場（以下、和果試と表記）と富士通株式会社は、生産者の多様な経験・技能および和果試の知見を迅速な支援や産地振興に役立てることを目的として、2013年10月に「フルーツクラウド・サイトβ版（以下、FCβと表記）」（図1）を無償で公開しました。

2. FCβ開設に向けた要望調査とFCβのコンテンツ

2012年、主な生産者団体（和歌山県果樹新品種同志会、ありだネット21、環境保全型農業研究会、有田4HC）にフルーツクラウド構想を説明し、どういった情報が有益か、FCβに何を求めるのかを聞き取りました。その結果得られた意見から、カレンダー上の開花始期を選択することでヤノネカイガラムシの幼虫が発生し始める時期を予測する「ヤノネカイガラムシ幼虫の初発予測機能」（図2）、果実分析した結果を記録し、その後の果実品質や肥大を予測する「果実品質・肥大予測機能」（図3）、利用者同士が交流できる「掲示板機能（コミュニティ）」（図4）の3つのコンテンツと50mメッシュ気温図を搭載しました。

3. FCβ利用者の反応

2015年2月末のFCβ利用者数は約80名です。2015年2月末にFCβの改善点などに関するアンケートを実施しました。その結果、FCβを今後本格的に運用していく場合は、「スマホ版」や「コミュニティでの画像投稿機能」、「農作業メモ機能（他人には非公開のもの）」、「ヤノネカイガラムシ以外の害虫の予察情報」、「ログイン方法などを簡便化して欲しい」といった意見などが寄せられました。

4. 今後に向けた課題

FCβは試用版のため、Google Chrome のみの利用に限定されており、ログイン時は毎回ID・パスワードを入力しなければならないなどの難点があります。上記のアンケート結果や、利用者から直接聞き取った意見から、フルーツクラウドを本格運用していく上で利用者が特に重要視しているのは、「自身の扱いやすい媒体で簡単に操作できること」だと明らかになりました。今後、このようなホームページを本格的に運営するには、運営主体をどこに置くか、またシステム構築や運営にかかる費用をどうするかということ産地ぐるみで話し合い、産地の実情に見合った運営スタイルを見つけていく必要があります。



図1 FCβ トップページ



図2 ヤノネカイガラムシ幼虫の初発予測



図3 果実品質・肥大予測



図4 コミュニティ